

## 1 目的

本校の入学生の多くは第二種兼業農家と非農家である。そのため、農業学習・農業体験を行うことで、生徒の興味・関心を高めていく必要があり、地域農業の実態を把握させるための視察研修や職場体験学習を行うことは教育的効果が非常に高いと考える。

本事業の目的は、下記の事業を継続して実施することで、生徒の地域農業に対する視野を広げ、農業への理解と就農意欲を喚起することである。

## 2 実施状況

### (1) 地域交流

地域の方々とのふれあい体験や幼稚園、学校などとの交流活動を行った。生徒自身が花の栽培方法を説明したり、牛とのふれあい体験を実践したりすることで、自分たちが生産した農産物や農業の魅力を伝えることができ、地域の方々に喜ばれるとともに、充実感や達成感を得ることができた。



下西校区の方々との交流

### (2) JA 実習の実施

生物生産科 1 年生 22 人が、4 日間の日程で種子屋久協同組合の各事業所および関連機関で職場体験学習を行った。

体験学習をとおして、地域農業とそれを支える関係機関に対する理解が深まり、農業に対する生徒の興味・関心を引き出すことができた。



JA 実習（肥育センター）

### (3) 島内視察研修

生物生産科 1 年生 22 人が島内の先進的な農家および研究機関や施設を視察した。スマート農業を実践している農家ではファームノートの活用について、研究機関ではサトウキビ生産の現状や育種法について説明をしていただき、地域農業の現状や先進的な取組について理解を深めることができた。



島内視察研修（杉牧場）

### (4) 島外視察研修

将来、就農や農業大学校への進学を志す生徒を対象に島外の先進農家等の視察を実施した。植物工場はでLED照明を活用した植物の栽培を見学し、観光農園ではイチゴ栽培の現状や経営理念について理解を深めることができた。



島外視察研修（株式会社エルム）

## 3 今後の課題、取り組み

本年度は、農家の後継者として3人の生徒が就農した。本事業を活用することで農業を志す生徒たちにとって大変有意義な視察や研修を行うことができた。

今後も事業内容の充実を図り、地域農業を支える人材育成に力を入れていきたい。